

日時：2004 年 3 月 28 日（日） 12：30～14：00

場所：チャペル 5 階研修室 C

出席者：上田執事、大竹惟司、関武矩、若林、川津、内田研吾、大西信一、大竹ひろ子、
内田恵美子、遠藤、田島、馬渡、大八木、本多、大西礼子 以上 15 名

配付資料：総会の式次第、聖歌隊名簿、会計報告、礼拝委員作成文書

議事：（司会；川津）

1. 開会のお祈り（大竹隊長より）
2. 昨年度の総括および今年度の予定（ " ）
3. 今年度の目標や課題について（ " ）

<昨年度総括>

- ・ 24 回のデューティ（深夜ミサを除く）で、24 曲のアンセム（新曲は 6 曲を奉唱した。選曲基準は、①イギリスの作曲家を中心に（聖公会の伝統を踏まえるという観点から）②邦人や東洋人の作品を取り上げる。（助川、松平、イゴンニョン）
- ・ 合宿のプログラムは全曲イギリスの作曲家のものとした。
- ・ レクイエムはモーツァルト。ソロは大竹ひろ子、大八木、川津、今井。今後も新人のソロを育成したい。フェスティバルクワイヤーは、ここ 2 年間の参加者にのみ、出欠を問う案内を出し、新規希望者は受け入れなかった。（台にのれる人数を考慮した）また、久しぶりに奉唱後のお茶会を開催した。
- ・ クリスマスは昨年同様 2 回の礼拝で奉唱し、式文もまた、武田さんのチャントを使用した。（深夜ミサは天使ミサ）

<今年度予定、目標、課題>

- ・ 昨年度総会で、合宿終了後に、合宿の成果を披露する意味で、チャペルでミニコンサートを開催したいとの意見があったが、果たせなかった。今年は企画したい。
- ・ 合宿の意義を再確認したい。できるだけ多くの隊員に参加してほしい。土曜朝からの参加が可能なら、前夜に来てくれるとありがたい。
- ・ 主要な予定は、イースター、聖霊降臨日、夏季合宿、レクイエム、イブ礼拝である。

4. 聖歌隊名簿確認、配布（大西礼子）

- ・ 名簿が配布され、訂正、加筆を行なった。名前にフリガナをつけてほしいとの要望があった。
- ・ 「隊友」として、2 名が別記されたことについて、説明があった。
→他教会に教籍を有しているためデューティへの参加はできないが、聖歌隊活動のさまざまな局面において重要な役割を担っている、と隊長が認めた人に対して、今年度から「隊友」という立場を設けた。なお、隊友の隊費に関しては、財務委員を中心に再考する。

5. 決算報告（内田研吾）

- ・ 昨年のレクイエムのお茶会後の隊員打ち上げ会に関しては、聖歌隊会計からの補助はせず、全額自己負担とした。（プライベートな打ち上げ会のため）
- ・ チャペルから合宿に対して毎年 10 万円の補助があるが、チャペルからこの金額に関する打診があり、増額が可能な模様である。この 10 万円はコックへの謝礼額に相当している。増額分を司祭やコックの交通費等に当てれば、合宿費用として隊員から徴収する額は、各人の食事と宿泊費相当額となり、いわゆる「参加費」が不要になることも考えられる。
- ・ キャソックの洗濯は病院関係業者に出し、コピー（楽譜やアンセムの解説リーフレット等）は病院内のコピー機を使用しているため、その費用は聖歌隊会計外である。

6. 昨年度各委員から報告および提案

6-1 企画、渉外（内田恵美子）

- ・ 病院との折衝面は病院職員である玉木氏にお願いしている。今年度も引き続き依頼する。
- ・ 昨年度行なったことは、合宿（部屋割り、当番割りあて、パーティ進行等）、レクイエム後のお茶会・打ち上げ、クリスマス当日の夕食などの企画や手配である。
- ・ 今年度の提案としては、①昨年実現できなかった合宿後のミニコンサートの開催（日曜の礼拝後、会衆を引き止めることへの懸念があるが）、②金曜夜の練習に参加できない隊員のための、土曜午後もしくは 1 泊合宿という形での練習の実施である。

6-2 財務（内田研吾）

- ・ 今年（1 月）から、中途入隊者は、入隊月から月割 500 円と計算して当該年度の隊費を納入するものとした。（年間隊費は 6000 円となった）

6-3 備品管理（田島）

- ・ 印刷に関しては、生井、大西信一の両氏の助力を得て務めた。

6-4 礼拝（大西信一）

- ・ 礼拝委員として隊員にアピールしたいことを文書化したので、目を通してほしい。

7. 今年度委員選出

- ・ 企画、渉外＝内田恵美子 サブ：関敦子（本日欠席のため、本人の意向を問うた上で依頼する予定）⇒後日、本人の承諾を得た
- ・ 財務＝内田研吾
- ・ 備品管理＝田島 サブ：生井（内諾を得ている）
- ・ 礼拝＝大西信一
- ・ 記録＝本多 サブ：川津

（昨年度は記録担当を委員から外したが、必要性ありとの意見が出て、委員に復活）

- * 礼拝時の出欠の記録については、委員が毎回記録するのではなくて、出席表をはっておき、そこに自分で書き込むようにしたらどうか、との提案があった。

8. 聖歌隊への意見、希望、提案等

- ・ たくさんの練習もよいが、少ない練習で効率的な技術アップをはかるため、練習時や合宿時に発声などのトレーナーを招いたらどうか。(馬渡) -*
- ・ 発声指導を受けたい。(数人の隊員より) -*

* 上記の2つの*印の意見に対しては、隊長以外の人への指導を受けることに、懐疑的な意見もあった。

- ・ アンセムの背景などは、練習時に知りたい。現在、奉唱当日に会衆に配布されている解説文も練習時に提供できないか。(内田恵美子) →礼拝委員より、努力するとの返答があった。
- ・ 聖歌隊員が礼拝後、当日のアンセムの評価を聞くなりして、会衆と交流を深める姿勢を持ちたい。(大西信一)
- ・ 総会時だけでなく、合宿でもフリートーキングの場を持つとよい。(上田執事)
- ・ 心が開かれていくように歌う、ということも忘れないでほしい。(上田執事)
- ・ 練習に努めて参加してほしい。(大竹隊長)

◎ 土曜日や1泊合宿で練習する件、合宿後のミニコンサートの件は今後委員会で検討していく。

◎ 合宿に対する要望などは、合宿間際の礼拝後の練習の際、隊員に聞くことにする。

9. 閉会のお祈り (全員で主の祈りを唱える)

以上

(記録：大西礼子)